

Sonora XJを H-UV 機で運用

株式会社小山オフセット印刷所



Sonora XJプロセスフリープレートを、SCREEN社製CTPで月平均1,200版出力し、KOMORI社製H-UV印刷機とリョービMHI社製油性印刷機で活用。H-UVでも油性でも、安定した出力と高い印刷品質を実現。

100年以上の社歴を誇る老舗印刷会社

広島県福山市にある株式会社小山オフセット印刷所は、100年を超える歴史を持つ老舗印刷会社である。明治45年の創業以来、地元福山の地に根ざした印刷会社として、着実な歩みを続けてきた。顧客は市内の自治体、経済誌、医療機関、一般企業、同業の印刷会社など多岐に渡るが、5年前に同人誌印刷的を絞って開設したネットショップも売上全体の10%を超えるまでに成長してきた。印刷部門には4色機2台(A全/B2)と1/1色の菊全両面機1台を擁し、デザイン制作から製版、印刷、後加工まで一貫した生産ラインを社内に構築。社員数約20名と小規模ながら、蓄積された技術と経験にもとづいた、きめ細かな顧客サービスを展開する。「頁ものが好き」と語る代表取締役の小山正氏のこだわりが随所に光るプロフェッショナル集団である。

「H-UV印刷機とSonora XJの相性は抜群です。印刷機を導入した初日から、実際の仕事でがらがん回しました」

Sonora XJがSCREEN社製CTPでも安定した出力性能を発揮

同社の製版部門ではSCREEN社製のCTP PTR2台でKodak ExThermo TP-W サーマルプレートと水なし版を出力し、長年にわたって印刷工程に供給していた。水なし版は20年以上、TP-Wは10年近く使い続けており、なかでもコダックのCTPプレートについては品質、



代表取締役 小山 正 氏



製版部 中野 真茂 氏



印刷部 海上 繁光 氏



KOMORI 社の H-UV4 色印刷機



リョービ MHI 社製の 4 色印刷機



地に密着した印刷ビジネスを展開

生産性、安定性などあらゆる面で大きな信頼を寄せていた。一昨年には環境に配慮して Kodak Thermal Direct ノンプロセスプレートにも挑戦したが、生産性の低下が唯一の弱点となって、本格的な導入を断念した。ただ現像工程の不要な刷版なら、現像機のメンテナンスが不要になり、薬品の購入費用や廃液の処理費用も削減できると、大きなメリットを感じていた。そのため、感度が向上した新しい Kodak Sonora XJ プロセスフリープレートをコダックから紹介されると、導入に向けたテストがすぐに行われた。製版部の中野真茂氏は、Sonora XJ の生産性について次のように話している。

「当社の CTP は毎時 13 版の出力ですが、Thermal Direct の出力版数は 6 ～ 7 版ほどで、忙しいときに使うことはできませんでした。新しい Sonora XJ では、感度が向上し約 90% の出力スピードが維持できるので、非常に満足しています」

カラーマネジメントもコダックが推奨するキャリブレーションカーブを設定するだけで、すぐに適正なドットゲインが得られ、調整に手間取ることにはなかった。印刷部の海上繁光氏も、初めて Sonora XJ を使ったときの印象を次のように語っている。

「使う前は不安でしたが、実際に使ってみると、今までの TP-W と変わることなく普通に刷れました。刷り出しも早くなり、損紙も削減できました。細かな網点まで再現されているので、印刷品質も格段に向上したと好評です」

小山社長も PTR と Sonora XJ は相性が抜群だと絶賛している。こうした社内テストの結果を受けて 2016 年 1 月には、B2 判 4 色機で使用する刷版はすべて Sonora XJ に切り替えた。

H-UV 印刷機の導入初日から Sonora XJ で実運用をスタート

Sonora XJ の導入後も、もう一台の 4 色機では水なし印刷が続いていた。ただ印刷品質や版材コストに対する不満もあって、KOMORI 社製 H-UV 印刷機への更新が決まった。2016 年 5 月には新しい印刷機が設置され、メーカーによるテスト刷りが行われた初日から、すぐに実際の仕事で使いはじめたそう。もちろん、刷版は Sonora XJ で「トラブルは一切なかった」と小山社長は次のように振り返っている。

「H-UV 印刷機と Sonora XJ の相性は抜群です。印刷機を導入したその

日から、実際の仕事でがんがんに回りました。しかもオペレータは水あり 4 色印刷の経験がなく今回初めてだったにも関わらず、印刷トラブルは一切ありませんでした。耐刷性に問題はなく、品質も水なし印刷と比べて、明らかに向上しました」

新しい印刷機の導入によって、同社は油性印刷機と H-UV 印刷機の両方で 100%、Sonora XJ を使うようになった。その一方で CIP4 に対応していない 1/1 色の両面機だけは、今まで通り TP-W を使い続けていた。その理由は Sonora XJ の絵柄が薄く、刷版の絵柄面積率が読み取れないからだった。このために現像機を設置し続けている同社だが、それでもメンテナンスの手間は大きく削減できたという。液交換の頻度は減り、2 ～ 3 カ月に 1 回だった廃液回収も半年に 1 回程度となり、コスト削減と環境保護に貢献している。

「福山オンリーワン」の印刷会社を目指して

同社が 5 年前に参入した同人誌印刷のネット受注は、年 2 回の大型イベント直前に集中するため、超短納期に対応した瞬発力が欠かせない。今回の H-UV 機や Sonora XJ の導入は、こうしたネット受注への備えに他ならない。会社の規模拡大に興味のない小山社長は、売上よりもお客様の琴線に触れる提案力で、社員が充実感を覚える仕事、適正な利益が出る仕事にこだわって、「福山オンリーワン」を目指している。最後に頼られるのではなく、最初から声がかかる印刷会社になりたいという、社長の思いをコダックのソリューションがこれからも支え続けてゆくに違いないだろう。



株式会社小山オフセット印刷所

代表取締役社長：小山 正

〒720-0053 広島県福山市大黒町 2-24

TEL：084-922-0280

FAX：084-924-2122

<http://www.koyama-print.com/>

掲載した各社の正式名称は下記の通りです。

※株式会社 SCREEN グラフィックアンドプレジジョンソリューションズ

※株式会社小森コーポレーション

※リョービ MHI グラフィックテクノロジー株式会社

コダック 合同会社

〒140-0002 東京都品川区東品川 4-10-13 TEL.03-6837-7285 (営業代表)

大阪：050-3819-1266 名古屋：050-3819-1265 福岡：050-3819-1270

仙台：050-3819-1255 札幌：050-3819-1250 金沢：076-200-9583

製品のお問い合わせ先 JP-GCG-products@kodak.com

2016.09

詳細は

<http://www.kodak.co.jp>

